

## 試聴会・訪問記掲載

### シمامセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 (2020.6.9)

#### 1. はじめに

昨年10月の[吉田苑大阪試聴会](#)でZANDENのデモを聴く機会があり、イコライザーカーブの切り替えと位相の正逆切り替えができるフォノイコライザーZANDEN Model 120に興味を持ちました。本機はシمامセンで試聴できるとのことで、アナログ盤を持参して行ってきました。

#### 2. 使用機器等

カートリッジ  
プレイヤー

Ortofon Cadenza Red  
TECHNICS SL-1000R



フォノイコライザー ZANDEN Model120



**ACCUPHASE C-37 (比較対象)**



プリアンプ

**ZANDEN Model3100**



パワーアンプ

**ZANDEN Model8120**



スピーカー

**SONUS FABER Serafino**



なお、ZABDEN の製品情報のサイトは以下のとおりです。

<http://www.zandenaudio.com/jp/product.php>

試聴に使用した盤は、次の通りです。

バッハ：チェンバロ協奏曲 ピノック指揮 English Concert ARCHIV 28MA 0020  
日本 POLYDOL 盤

バッハ：Ein Feste Burg ist Unser Gott

Mauersberger 指揮ライブチッヒゲヴァントハウス  
ARCHIV 198407 DG Hamburg 製造盤

ARCHIV 198407 Muenstermann-Druck Hanover 製造盤

ジョン・デンバー Special 24

RCA SR-9501-02

ファリャ：三角帽子 アンセルメ指揮スイスロマンド

LONDON SLC-1138

### 3. 試聴の経過

Model 120 ではイコライザーカーブは次のカーブに対応しています。

RIAA TELDEC EMI COLUMBIA DECCA

また、盤のカッティングには正相と逆相の盤があるようで、上記フォノイコライザーとプリアンプにはそういった切り替えが可能です。

フォノイコライザーは Model120 の他、比較のために ACCUPHASE の C-37 も使用しました。

最初にショップ保有のパールマンのメンデルスゾーンのV協で音の感覚をつかみ、持参した盤で試聴に入りました。

バッハのチェンバロ協奏曲では、イコライザーカーブを RIAA と TELDEC、位相を正相、逆相に切り替えて試聴しました。この盤は、[吉田苑大阪試聴会](#)での ZANDEN のデモで使用されていたものですが、その時と同様、TELDEC カーブで逆相にした場合、バランスがよく、チェンバロの焦点があった感じでした。

バッハのカンタータ曲 *Ein Feste Burg ist Unser Gott* は、Hamburg 製造盤と Hanover 製造盤を RIAA と TELDEC カーブで正相、逆相に切り替えて試聴しました。自宅では RIAA で聴くと Hanover 製造盤は焦点が合わない感じです。TELDEC カーブで聴くと正相と逆相に切り替えても、その差は小さいのですが、心持ち Hanover 製造盤の方は逆相にした方が良さそうな印象です。

ジョン・デンバーは、RIAA と COLUMBIA カーブで、正相で聴きましたが、RIAA では騒がしくなってしまう、RCA の盤ということで COLUMBIA カーブが良さそうです。

ファリャの三角帽子では、RIAA と DECCA カーブで、正相で聴きましたが、この LONDON 盤には、*ffss* との記載があり、DECCA カーブのバランスが良いことがはっきり分ります。

ここで、フォノイコライザーを C-37 に切り替え、RIAA (これしかない) の正相で聴きましたが、すっかりアキュフェーズの音になってしまい、カーブや位相の判断は付けられません。C-37 は切れ味がよく、すっきりとしすぎたようで、ZANDEN の方が、潤い感があるように感じ、好みから言えば、こちらの方を採りたい印象です。

#### 4. まとめ

ZANDEN のフォノイコライザー Model120 のイコライザーカーブと位相の切り替えは、古いアナログ盤を聴くには有用と判断されます。特に、古いドイツ盤については TELDEC カーブが有用ではないかという印象でした。

以上